

Hello! FUJISEI

No.284

病気やケガに対する不安として最も大きいのが「長期の入院で医療費がかさむのではないか…」ということです。さらに、治療の長期化で収入が途絶えてしまうことも心配です。医療費の多くは公的医療保険でまかなえるとはいえ、差額ベッド代など個人の負担額は少なくありません。

実際に入院した場合、退院までにどれくらいの日数がかかっているのでしょうか？ 3年ごとに実施されている厚生労働省の「平成26年 患者調査」からその実態をみてみましょう。

平成26年9月中に退院した全国の推計患者についてみると、在院日数の平均である平均在院日数は31.9日で、施設の種別別にみると、「病院」が33.2日、「一般診療所」が17.4日となっており、ともに短くなる傾向となっています。

年齢別では、15～34歳で12.0日であるのに対し、35～64歳では24.4日、さらに65歳以上になると41.7日と、年齢が上がるにしたがって長期化

退院患者の平均在院日数は31.9日

日数は短くなる傾向でも、備えは必要！

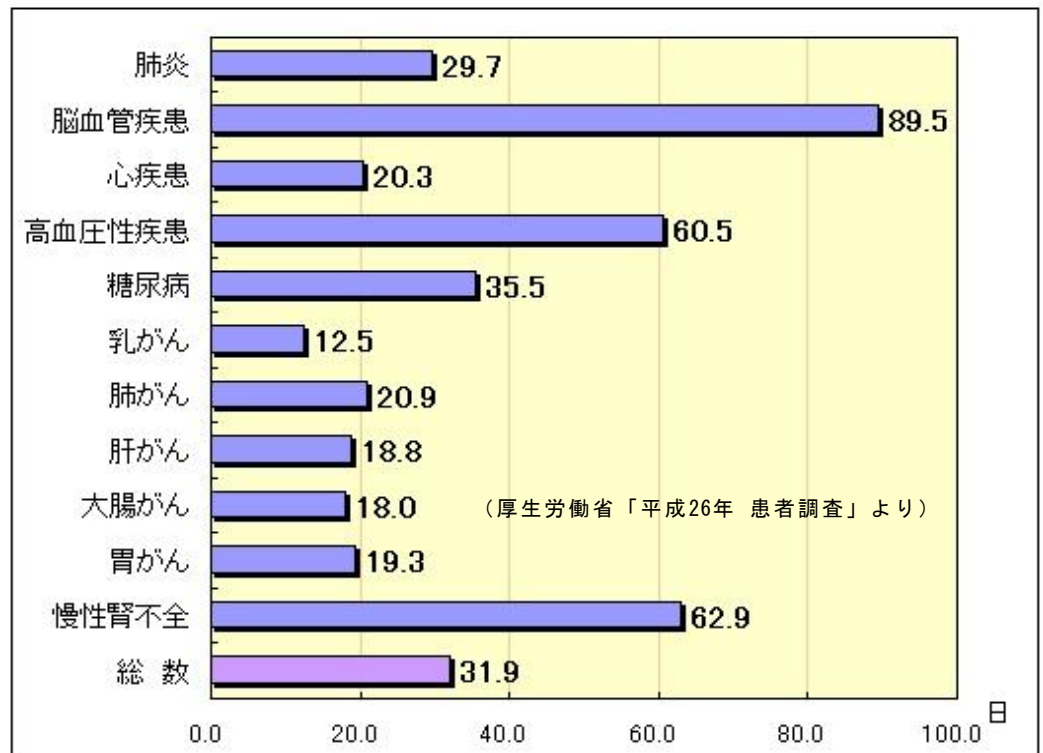
する結果となっています。ただし、年次推移では全体的に短くなる傾向にあります。

次に、主な傷病別部位別でみると胃がん19.3日、大腸がん18.0日、肺がん20.9日、高血圧性疾患60.5日、心疾患（心臓病）20.3日、脳血管疾患（脳卒中）89.5日、糖尿病35.5日となっています。そのほかでは、アルツハイマー病266.3日、結核58.7日などが平均在院日数が長くなっています。

診療報酬制度の改正などを背景に全般的に入院日数は短くなる傾向にありますが、病気の種類、手術の内容によっては長期にわたることもあります。また、治すために必要な高度な先進医療、通院による定期的な治療など入院日数とは関係なく高額な費用が必要となる場合もあります。

高齢になるほど入院日数も延びる傾向にあります。万が一の際の医療費は若いうちから準備しておく必要があります。

主な傷病別にみた退院患者の平均在院日数



注：平成26年9月1日～30日に退院した者を対象としたもの。

AIG富士生命保険株式会社

〒105-8633 東京都港区虎ノ門4-3-20
神谷町MTビル